

E-18 家政学に対する情緒的意味の 測定：女子大生のプロフィール

共立女大家政 松島千代野

1. 家政学に関連した概念の情緒的意味を測定した場合、日本の学生と教師は米国のそれよりも定量的概念距離が大きく、また、両国の教師は同学生よりもその距離が小さく、類似した観念をもっていることが分った（前回発表）。今回は女子大生群だけの微分析を行なって上記の実証を追究することを目的とした。

2. 選択概念16個に対して15個のSD尺度上の得点を共立女大家政（149）、日本女大家政（150）、コーネル大家政（210）、いずれも入学直後の1年生から集収した。概念間の距離（情緒的意味の相似相違点）の定量分析は、3意味因子構造上の各尺度群平均値を基底とするD値で処理した。

3. 米国の女子大生は、家政学も家庭科も同様に認知し、とくに職業婦人、調理、裁縫の3概念との連想が高い。日本の学生は、家政学と家庭科に対してやや相違性を有し、家政学は家庭管理や調理と、家庭科は家事、裁縫や主婦と近接している。共立女子大生はこの連想に近いが、日本女子大生はややコーネル大生のように、家政学と家庭科と相似的に連想する方に傾いている。なお、コーネル大生の場合、家政学は職業婦人との概念距離がもっとも近い。日本の学生の場合、この両概念の距離が遠い。3学生群とも、家族関係は家政学の概念群から遊離している。